

2016年8月7日（日）17:00～（開場16:30）@谷中の家（東京都台東区谷中3-17-11）

## 鎌仲ひとみ監督トーク& 『カノンだより』上映 [フクシマ編]

『カノンだより』は、鎌仲ひとみ監督の長編ドキュメンタリー『小さき声のカノン—選択する人々』の制作と並行して届けられてきた、1本が10分前後の短編レポートです。チェルノブイリ原発事故後のベラルーシやウクライナの人々と、福島第一原発事故と共に生きる日本の人々取材し、内部被ばくの影響や市民の取り組みなど現在進行形の状況、いわば国内外各地の「小さな声」を伝えています。「大きな声」は“大丈夫、たいしたことはない、もう終わったことだ”と言いますが、私たちは「小さな声」を聞き逃すまい、と切に思います。子どもたちを被ばくから守るために今何をすべきか？これは、何はともあれ、待ったなしの問題だと思います。一緒に考えませんか？

「被ばくと保養」をテーマに、前回のチェルノブイリ編に続き、今回はフクシマ編をお届けします。



保養イベントを呼びかけた看護師の井上真由美さん。  
↓ ストレスを抱えた母子たちを仲間とともに支える。



↑ 親子で受診できる甲状腺検査などがプログラムに組み込まれた保養イベント「いのちキラキラ希望の風フェスタ in 笹神」

### プログラム ■ 参加費

17:00～19:00 鎌仲ひとみ監督のお話と『カノンだより』4本上映 ■ 参加費 1000円(定員30名) **要予約**

1. 市民の思いと力
2. 同朋幼稚園@滋賀
3. 母であること ～その思い
4. 言葉ではなく生き方で ～荒木田さんの場合

19:00～19:15 休憩

19:15～20:30 交流カフェ（軽食+1ドリンク付） ■ 参加費 500円（定員20名） **要予約**

### 【鎌仲ひとみ監督プロフィール】

早稲田大学卒業と同時にドキュメンタリー映画制作の現場へ。文化庁の助成を受けてカナダ国立映画製作所に滞在し、メディア・アクティビスト活動。1995年の帰国後はNHKで医療、経済、環境をテーマに番組を多数制作。主な監督作品に、2003年『ヒバクチャー世界の終わりに』、2006年『六ヶ所村ラブソディー』、2010年『ミツバチの羽音と地球の回転』、2012年『内部被ばくを生き抜く』、2015年『小さき声のカノンー 選択する人々』。著書に『ヒバクチャードキュメンタリー映画の現場から』影書房、共著に『内部被曝の脅威』（ちくま新書）『ドキュメンタリーの力』（子供の未来社）など。多摩美術大学非常勤講師。  
公式サイト <http://kamanaka.com/>

### 【上映作品の内容】

#### 1. 市民の思いと力 (カノンだより vol.3, no.10) 12分

新潟県阿賀野市で年2回行われている"いのちキラキラ希望の風フェスタ in 笹神"は、親子で受診できる甲状腺検査などが組み込まれた1泊2日の保養イベント。ストレスを抱えた母子たちを支える市民の思い。そして、今の子どもたちの健康は!?

#### 2. 同朋幼稚園@滋賀 (カノンだより vol.2, no.5) 17分

『内部被ばくを生き抜く』にも登場した同朋幼稚園が行った滋賀への保養取材。外に出て草花を摘む子どもたち。そして、それを見つめる母たちの想いと。

#### 3. 母であること ~その思い (カノンだより vol.4, no.14) 14.5分

原発事故後、子どもたちの体調の変化を感じ、新潟に母子避難した磯貝さん。国の指定区域以外から県外への避難者への補償はほとんどない中、暮らしの厳しさと憤りを抱えながら、子どもを守りたいという思い。そして、離れて暮らす夫・父の思い。

#### 4. 言葉ではなく生き方で ~荒木田さんの場合 (カノンだより vol.4, no.16) 12.5分

社会学者の荒木田岳さんをレポート。「美味しんぼ騒動」で渦中の人となった当時、何が起きていたのか。母子避難をする家族から離れ、福島で暮らしながら現状の異常な状態を訴え続けている。そして、荒木田さんが貫く生き方とは。

### 【会場】 谷中の家 (台東区谷中3-17-11)

メトロ千代田線千駄木駅・JR日暮里駅・JR西日暮里駅下車徒歩7分。よみせ通り、延命地蔵を東へ入る、2筋目を南へ入って東側2軒目。目印は格子戸。

### 【予約方法】 以下いずれかの方法で予約してください。

#### 1. 申込みフォーム

【上映・トーク】 <http://kokucheese.com/event/index/411501/>

【交流カフェ】 <http://kokucheese.com/event/index/411502/>

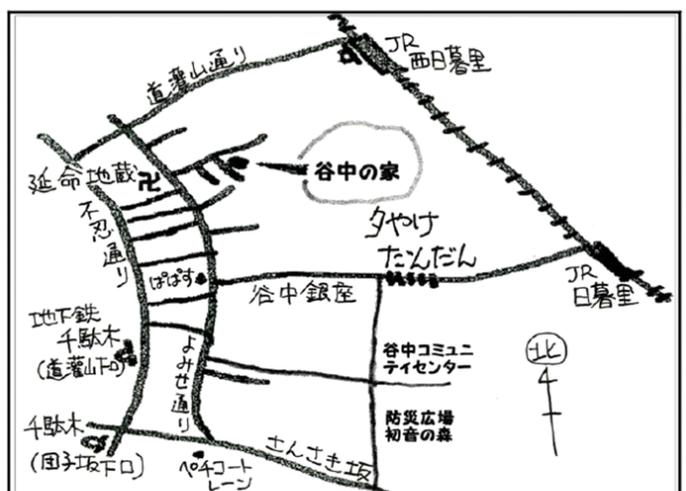
\* 上映と交流カフェは別々にお申込みが必要です。

#### 2. メール [eigasai@jtgt.info](mailto:eigasai@jtgt.info)

\* 件名を「月1原発映画祭申込み」として、参加者氏名(複数お申し込みの場合は全員の氏名)、参加内容(上映・トーク/交流カフェ)を明記してください。

#### 3. 電話 090-1265-0097 (植松)

または090-9492-0075 (西川)



● 交流カフェは「上映・トーク」に参加される方が優先となります。

● キャンセルされる場合は必ず事前にご連絡ください。